

飯伊 産業経済動向

No.446 2016/5
(28. 6. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	4,493	枚	33.7	%	17.9	%
	金額	5,008,672	千円	39.6	%	10.6	%
うち不渡発生状況	枚数	1	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	10	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	5	件	(前月 7 件)		(前年同月 8 件)	
	飯伊	0	件	(前月 1 件)		(前年同月 0 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(4月)		37	戸	△ 27.5	%	△ 28.8	%
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(4月)		1.26	倍	(前月 1.27 倍)		(前年同月 1.08 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,105	台	5.7	%	7.5	%
	中古車	586	台	△ 16.3	%	△ 8.2	%
軽自動車新規登録台数 (長野県自動車協会)(4月)	新車	2,905	台	△ 55.5	%	△ 11.2	%
	中古車	1,410	台	40.9	%	△ 6.4	%
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	116,857	台	7.0	%	△ 5.5	%
	出	116,828	台	5.8	%	△ 6.4	%
中央道利用台数 (松川インター分)	入	76,466	台	8.3	%	△ 5.1	%
	出	73,095	台	7.6	%	△ 7.5	%
中央道利用台数 (園原インター分)	入	16,770	台	△ 5.6	%	△ 24.1	%
	出	17,903	台	△ 14.5	%	△ 27.2	%
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	44,599	台	6.3	%	△ 7.5	%
	出	44,229	台	4.8	%	△ 8.5	%
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		138	件	4.5	%	8.7	%
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		1	件	(前月 11 件)		(前年同月 5 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	28,250	人	12.0	%	△ 2.8	%
	飯田～名古屋	16,930	人	13.2	%	△ 3.5	%
	飯田～長野	10,360	人	4.1	%	△ 27.6	%
市内循環バス乗車人数	左回り	3,323	人	△ 4.9	%	△ 0.3	%
	右回り	3,201	人	△ 6.8	%	△ 4.1	%

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当相談所が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに進めています。



100%植物性インキ
[リサイクル紙100%]を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

5月の製造業の景況判断指数(DI)は、マイナス32.1で、前月から25.8ポイント下降。翌月予測はマイナス20.0で、前月から8.1ポイント上昇している。

電気・精密機械部品の販売は、前月比概ね横ばい。「前月並みに推移。ここ2、3か月は安定した売上」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は見受けられない。半導体、液晶製造装置向け部品の受注残高は、前月比やや増加。景況感が好転した業者は見受けられないものの、「有機ELなどFPD関連は良好。IoT関連案件増」などの声。産業機器関連、医療機器等部品では、受注残高の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少～横ばいとする業者が多い。建築用金属製品の販売は、前月比やや減少、景況感は悪化との声。もっとも「例年年度初めはかなり落ち込むが、今年は順調」という。自動車向け部品の販売は、前月比概ね横ばいも、景況感は悪化、先行きも弱含みとの声が寄せられた。小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばいとの声。FA関連モーターの受注残高は、前月から概ね横ばいも、「産業機械向けの受注は、少しずつ回復している」との声。レンズ、光学機器の販売は、前月比やや減少～横ばい。電気、電子製品の生産は、前月比増加、景況感も好転との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比減少～やや減少。これには時期的要因の影響も大きい様子。前年比は、「定番商品の増加」など、複数の業者から増加との報が寄せられたが、景況感が好転した業者は見受けられない。水引製品の販売は、前月比減少～横ばい。「お盆需要」で、受注残の増加とともに、先行き販売増加を見込む声もあるが、こうした業者でも景況感の好転には至ってない。漬物の販売は、前月比減少も、前年比増加との声。

建設業

5月の建設業の景況DIは、マイナス13.3で、前月から30.5ポイント上昇。翌月予測DIも、0.0で、前月より25.0ポイント上昇している。

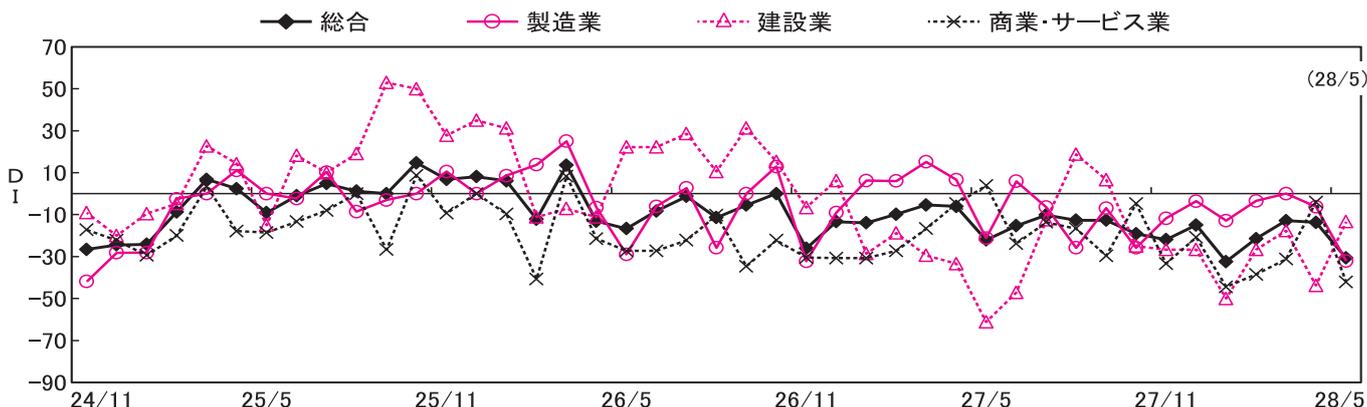
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約10.2億円で、前月比は129%増加、前年比も62%増加している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「元受工事を落札できた」などやや増加との声も複数あるが、「公共工事はポツポツ出始めたが、まるで少ない」など減少～横ばいとの声が多い。

民需の住宅着工戸数(4月)の住宅着工戸数は37戸。前月比28%減少も、前年比は29%増加している。当月の調査先業者の受注残高の前月比は、増減いずれの声もあるが、横ばいとする業者が最も多く、景況感が好転した業者は見受けられない。

商業・サービス業

5月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス42.1と、前月より38.1ポイント下降。翌月予測DIも、マイナス47.4で、前月より24.7ポイント下降している。食料品の売上は、前年比やや減少との声が多い。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、景況感は横ばいとの声。家事用品卸の売上は、前月比横ばい、前年比はやや増加との声。家電の売上は、前月比横ばい、前年比は減少。「消費者の購買意欲が無く、とにかく品物が売れない」などの声。OA機器の売上は、前年比増加も、「景気は良くないというより、むしろ悪いと言った方がしっくりくる感」など景況感は悪化しているという。衣料品の売上は、前月比、前年比ともやや減少、「夏物衣料の動きはボチボチ」との声も。娯楽用品の売上は、前月比やや増加、前年比減少。土産物関連の売上は、前月比は業者により増減分かれる。前年比はやや減少との声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比6%増加、前年比も8%増加。4月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比56%減少、前年比も11%減少。自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比ともに減少との声。市内料理店の売上は、前月比減少、前年比も減少との声が多く、「単価の高いものが売れない。景気が悪くなりそうな気がする」など景況感の悪化を懸念する声は多い。旅館の売上は、前年比減少の声。昼神温泉の売上は前月比、前年比ともに減少～やや減少。旅行代理店の売上は、「ゴールデンウィークは国内を中心に予約好調で売上は前年並を確保。海外は、近場の東南アジア方面で予約が多かったものの、今一つ活況に欠けた」との声。タクシーの売上は、前月比やや減少との声が寄せられた。

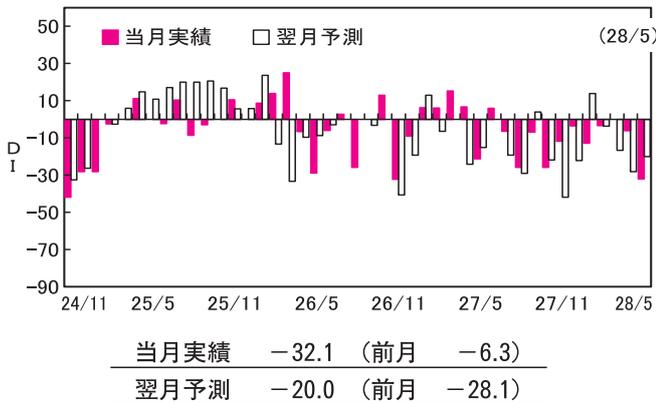
飯伊地区景況DI (本誌調査)



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI (製造業)

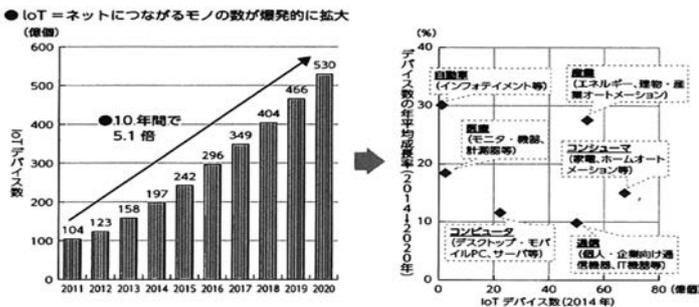


当月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス32.1で、前月から25.8ポイント下降。翌月予測はマイナス20.0で、前月から8.1ポイント上昇している。

平成27年版情報通信白書では、IoTがもたらす産業へのインパクトについて、複数の側面から事例を交えて概観している。

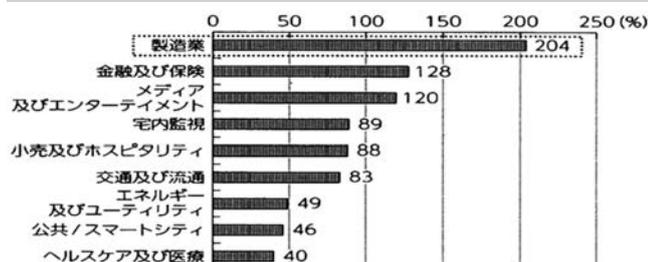
これによると、IoT時代の到来を表す一義的な指標として、インターネットにつながるモノの数の増加が挙げられるが、ある推定によると、2013年時点におけるインターネットにつながるモノ(IoTデバイス)の数は158億個だが、2020年には530億個まで増大すると見込まれ、成長率の観点からは自動車や産業の分野でのIoTが目玉されるという。

インターネットにつながるモノの数(IoT)の推移・予測



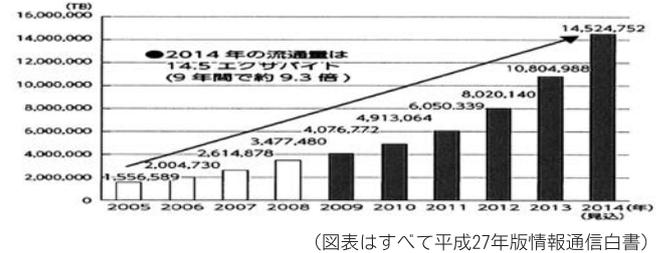
製造業を中心とした産業向けの事例として、米国の大手通信事業者が、自社のネットワークを利用したM2M(Machine to Machine)接続数の増加率(2013年→2014年)を分野別に示したデータを見ると、製造業が圧倒的に伸びており、製造業のIoT化には、製造設備稼働率の把握と改善、顧客に応じた商品の稼働状況を収集する業務効率化など様々な目的と狙いがあるという。

米VerizonのM2M接続数の増加率(2014年/2013年)



わが国を始めとする東アジアの企業では、IoTがもたらすビジネスへのインパクトとして「ビッグデータの集積」「データ分析の高度化」といった部分に注目する企業が多いが、わが国における産業関連表中9部門のデータ流通量(計量対象は21種)も、2005年から2014年の9年間で9.3倍となっているという。

データ国内流通量の推移



機械加工製造業

半導体関連部品、電子部品やモーター制御向け基盤など電気・精密部品の販売は、前月比概ね横ばい。「前月並みに推移。ここ2、3か月は安定した売上となっている」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は見受けられない。一部、先行き販売の増加を見込む声も聞かれた。こうした中、雇用面で「派遣社員を複数名採用して対応」「不足」などの声が聞かれたほか、設備面でも「工場増強を予定」「一台導入」「予定あり」など積極的な声が多く聞かれた。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、一部に先行き下降を見込む声がある。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注残高は、前月比やや増加。「一部製品で調整」「スマホ関連停滞」など景況感が好転した業者は見受けられないものの、「有機ELなどFPD関連は良好。IoT関連案件増」「IoT、有機EL市場の拡大により増加」などの声が寄せられた。先行きの見方は分かれ、生産減少を見込む声も寄せられた一方、「先行き増産予定」との声も。原材料、資材価格に関し、「材料全般に下げ止まり」との声は聞かれたものの、大きな動きはなかった様子。一部に「先行き若干名雇用予定」との声。設備面では、一部に「実施。今後も予定」との声がある。

産業機器関連、医療機器等部品では、受注残高の前月比は、一部にやや増加との声もあるが、やや減少～横ばいとする業者が多い。「海外向けのロボット分野」「設備関連(ロボット)」では「急増傾向」「受注が少し増えてきた」などの声が聞かれたが、「医療機器向けは海外市場の情報で増減があるが、現在減少傾向」「工作機械やや減少」などの声が聞かれ、総じて「電話の回数も減少」「大口の受注が減少。小物、短納期物が多く、売上、製品在庫ともに減少」「全体的に景気は良くない」「全般的にゴールデンウィーク明けから仕事減少の声が多い」などの声が多い。先行きの見方は分かれるが、弱含みとの見方がやや多い。

原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。製品価格は、一部にやや上昇した業者も見受けられたが、「値引き要求は厳しい」ものの、大きな動きはなかったとの声が多数を占める。雇用面では、「増員予定」「経験者なら考えたい」「複数名募集中」「数名増員予定」など積極的な声が少ない。設備面でも、「増設。秋頃に更に予定」「秋頃入れ替え」「機器の導入」「増資予定あり」など積極的な声が多く聞かれた。

建築用金属製品の販売は、前月比やや減少、景況感も悪化との声が寄せられた。もっとも「例年年度初めはかなり落ち込むが、今年は順調」という。しかし、「夏場が少々不安」など先行きは弱含みという。雇用面、設備面で積極的な声。原材料価格に当月大きな動きはなかったものの、前年に比べると下降との声が寄せられた。

自動車向け部品の販売は、前月比概ね横ばいも、景況感は悪化、先行きも弱含みとの声が寄せられた。資材価格や製品価格に大きな変動はなかった様子。

小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばいとの声が寄せられた。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。

FA関連モーターの受注残高は、前月から概ね横ばいも、「産業機械向けの受注は、少しずつ回復している」との声が寄せられた。販売は前月に比べやや減少しているが、これは「稼働日が少ない」ため、景況感の悪化には至っていないという。

レンズ、光学機器の販売は、前月比やや減少～横ばい。一部に前年比は増加との声も。「液晶の製造設備業界は好調に推移しているのでは。海外インフラ関係も、在庫調整はあったが問題なく動いている」などの声の一方、景況感が悪化した業者も見受けられ、こうした業者では先行きも弱含みという。「いい所とそうでない所の差は大きいように感じる」との声が聞かれた。当月、原材料、資材価格や製品価格に大きな動きはなかった様子。雇用面で積極的な声は聞かれない。設備面では、「工事開始。設備導入予定」「増やしたい」などの声が聞かれた。

電気、電子製品の生産は、前月比増加、「地方自治体や大手企業からシステムについての問い合わせが増えている」など景況感も好転との声が寄せられた。こうした業者では、「開発技術者が不足。開発部門の海外、他地域への移管の検討を始める」という。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比減少～やや減少。「例年、連休明けから7月中旬まで動きは静か」「ゴールデンウィーク後は注文が少ない」「例年通りだが、連休明けからヒマ」など、時期的要因の影響も大きい。前年比は、「定番商品の増加により」「全体としては昨年より伸びている」など、複数の業者から増加との報が寄せられた。しかし、景況感が好転した業者は見受けられず、「個人消費は相変わらず良くない」「動きが悪い。あまり良くない」などの声。雇用面、設備面では、現状維持との声が多いが、一部に「秋から複数名増員予定」「投資計画中」などの声も。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「高止まりの状況」という。

水引製品の販売は、前月比減少～横ばい。「お盆需要」で、受注残の増加とともに、先行きの販売増加を見込む声も聞かれたが、こうした業者でも景況感の好転には至ってない。「年末に向けた注文は出揃ったのではないかと。減少傾向は変わらず。前年並みの注文があれば良しとしなければならない」との報が寄せられた他、「市場のパイは小さくなっている」「大難が迫っているのに打開策が見つからない」といった声が聞かれ、「競合先との奪い合いは激しさを増すのでは。安定した製造場所、営業力、企画提案力の勝負になる」「例えば、和装、和式の良さを、現代的にアレンジして広げるといったアイデアの競演が必要。模倣を脱する多種多様な取り組みが重要」「水引組合事務局が飯田工業高校跡地にできる『知の拠点』に移りそう。業界のニーズと時代に合った施設ができることを望む」

などの声が寄せられた。「円高の好影響」で原材料、資材価格の低下を指摘する声が少ない。

漬物の販売は、前月比減少も、前年比増加との声が寄せられた。「市販用、業務用ともに堅調と思われるが、観光向け需要が非常に弱いと思われる」との声。「当地の特産品である小梅の収穫月だったが、気候の影響もあってか過去最低の収穫量だったと思われる」との報が寄せられた。

その他製造業

食品関連包材の販売は、前月比やや減少、先行きも弱含みとの声が寄せられた。原材料、資材価格に大きな動きはなかったものの、製品価格はやや下降したという。

印刷、出版関連の売上は、前月比やや減少も、前年比はやや増加との声が寄せられた。「次月以降、印刷業は仕事に空きが出る時期。企画提案型の仕事づくりが重要」との声。雇用面で、「複数名募集中だが、なかなか人材に巡り合わない」との声が聞かれた。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかったという。

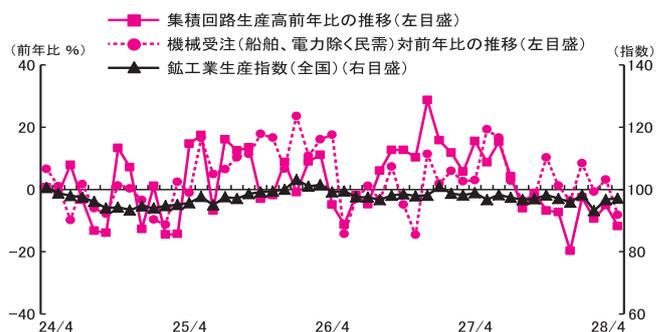
衣料品の売上は、前月比、前年比とも増加、景況感も好転との声。「夏物の企画が遅れ、生産が1か月以上もズレ込んでいる」こともあって当月の受注残も増加しているが、これは、「例年と異なる季節の変動で売れ筋が読めないことが主因」という。しかし、「そうしたことより、日本人の購買意欲が低すぎるのが最も問題」との声が寄せられた。「同業も廃業などで国内の生産力は減少している中、残っている工場は、仕事量は十分なのだが、収益が上がらない。これには、百貨店の、バーゲンが早くなる、コスト率が低く抑えられるといった問題があり、ロットや納期、単価などの面で製造現場を守らないと、百貨店、アパレルの将来に影を落とすのではないかと」との声が寄せられた。雇用面、設備面で、「依然ワーカー不足」「実施できない。秋ごろに予定」などの声が聞かれた。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器などの家具の販売は、前月比、前年比とも減少。「仕事量は全体的に落ち込み、市場は冷え込み始めている」など景況感悪化している。こうした中、「受注確保のため、採算割れと思われる仕事を受ける動きもある」との声も。「繁忙期前のこの時期、カタログ品等を作り込む時間に利用したい」という。設備面で先行き積極的な声が聞かれた。

【企業からのコメント】

- ★大手メーカーとの間で、OEM生産に係る業務委託契約が成立した。
- ★仕入先商社の話だが、荷動きがかなり落ちてきているという。
- ★従業員の一時帰休を実施しているところもあると聞く。

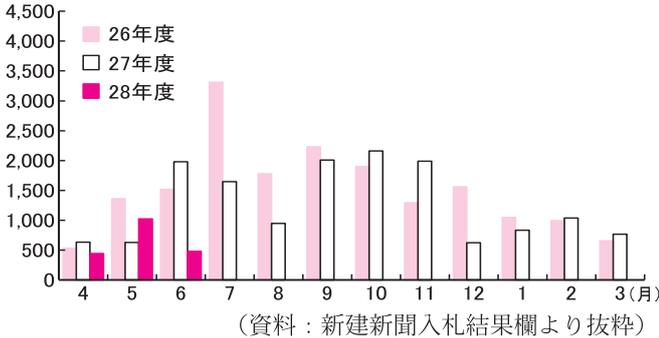
集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



建設業

月別入札額

(百万円) (飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料: 新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI -13.3 (先月 -43.8)

翌月予測DI 0.0 (先月 -25.0)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約10.2億円、前月比は129%増加、前年比も62%増加している。

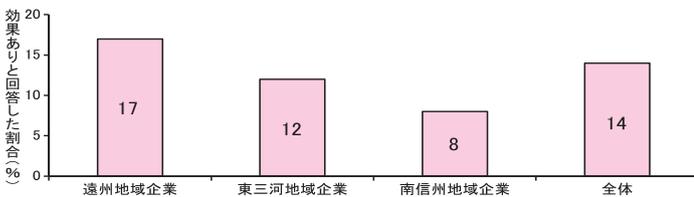
当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「元受工事を落札できた」「追加受注の動きは鈍いが、契約高は前年比増加している」などやや増加との声も複数あるが、減少～横ばいとの声が多い。「飯田下伊那地域だけ年度末から県発注工事がほとんどない。過去20年間で最も仕事の少ない年度末だった」「建設業は例年になく工事件数、工事量とも少なく苦労している」「発注量が例年になく少ない状態の中、受注残高は昨年とは比較にならない」「県工事は入札殺到。安定した発注元とは言えない」「公共工事はポツポツ出始めたが、まるで少ない」「生コン出荷量を見ても分かる通り、工事量は例年以下」などの声が多い。

先行き、「新年度分の受注見込みがある」「6月後半には官公庁工事が発注されてくるのでは」など、時期的に受注増加を見込む声は少なくないが、「やむを得ないこととはいえ、熊本の地震で多額の予算が使われ、当地域の公共事業は減少すると思う」との声がある。

リニア中央新幹線工事に関し、「今年度はリニア中央アルプストンネル長野工区の業者も決まり、生活道路である松川インター大鹿線の二つのトンネル工事も発注になる。地域全体がリニアの良い影響を受けることを願う」「地域に対する説明が不足しているのでは」などの声が寄せられた。

複数の業者から「資材、労務単価が上昇」との声が聞かれたが、その影響について「景況は上昇傾向」との声や、「工事予算が前年と同じため、工事量の減少に繋がっている」などの声。「ガソリン」等「石油製品」が「やや値上がり」との報が複数寄せられた。

三遠南信自動車道の効果ありと回答した企業の割合 (%)



(公社) 東三河地域研究センター、(特非) 静岡県西部地区しんきん経済研究所、(特非) しんきん南信州地域研究所によると、三遠南信自動車道いなさ北IC～鳳来峡ICの開通効果について、遠州地域企業の17%、東三河地域企業の12%、南信州地域企業の8%、全調査先企業の14%が、「何らかの効果があつた」と回答しており、具体的な効果の内容では、目下のところ、「販売・受注先の拡大」「共同研究機会の増加等」「異業種等との交流拡大」といった、主に人的な交流の面での効果を挙げる企業が多かったという。

民需

当地区の4月の住宅着工戸数は37戸。前月比28%減少も、前年比も29%減少している。

当月の調査先業者の受注残高の前月比は、増減いずれの声も聞かれたが、横ばいとする業者が最も多く、景況感が好転した業者は見受けられない。「一般工事は殆どない。新築住宅は少ない。リフォームも少ない。全てにおいて動きが悪い」などの声の一方、「リフォームのみだが、受注残増加」「現状人員不足気味」などの声。民間投資について、「製造業の設備投資が少ないので景気が良くならない」「公共事業が少ない中、工場や店舗の建設、営繕などの民間投資は盛んなので、これを頼りしている」など見方は分かれている。資材価格上昇との声は少なくない。

建設資材

建材の売上は、前月比、前年比ともやや減少。先行きは増加を見込んでいるとの声。「当地区の着工数の割に売上が伸びない。大手プレハブメーカーの着工戸数が多いのでは。現在、地元工務店や建築店の技術レベルは高く、大手プレハブメーカーに負けない技術力があるし、施主と『一生のお付き合い』と考えて仕事をしているところがほとんど。もっと地元業者に目を向けて欲しい」との声が寄せられた。

鋼材の売上は、前月比、前年比とも減少。「連休後荷動きは大きく減少。ここまでの売上減は予想だにできなかった。その要因も、しかとは分からず苦慮している。売先、仕入先問わず取引全体が落ち込んでいる。一時的なものなのかどうか分からず、回復の見通しも立たない」との声。鋼材価格は「メーカーは強腰なれど流通は苦しい状況」という。

生コンの売上は、前月比やや増加、一部に前年比もやや増加との声はあるものの、こうした業者でも「このところの好天で今まで打設できなかった現場が完了した。しかし、予定工事の遅れもあり、総じて出荷量は依然低迷」との声が聞かれたほか、「去年は過去最低の出荷実績だったが、4、5月は前年同月比で更に悪化。来月三遠南信自動車道関連の出荷が見込まれるが、それ以外に出荷に結び付く大型案件はない」などの声が寄せられた。「リニア対策」で「増員」「増設考慮中」などの声がある。

骨材等の売上は、前月比やや減少～概ね横ばい、前年比減少。「例年4～6月は売上が少ないが、変わらず悪い」「相変わらず低迷状態。徐々にリニア関連工事の最盛期に近づいているが、この状態では手の打ちようがない。現状維持に努めるのみ」などの声が寄せられた。一部に、雇用面、設備面で「検討中」との声も。

【企業からのコメント】

- ★飯田工業高校の跡地利用に、航空宇宙のみならず、この地域で従業員が多い農業、土木建築などの教育基盤を整え、若者の外部流出を防いでほしい。
- ★「アベノミクスに期待したが、地方には波及していない」「アベノミクスという言葉に不信感がある」「愛知でも人手不足で公共工事は不落が多いのに比べ、当地域の景況は大きな落差を感じる」

住宅建築確認申請受付状況 (※本誌調査による概数)

5月 ○下伊那地方事務所

新築 5件 (前年 5件)

増築 7件 (前年 4件)

○飯田市役所分

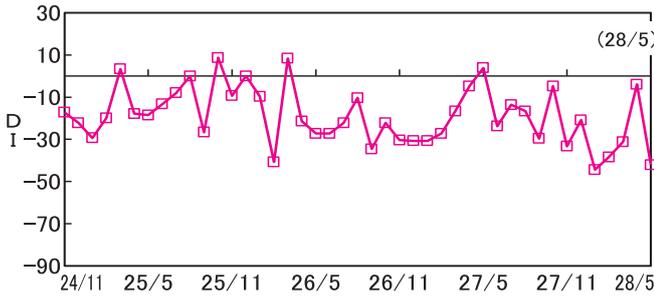
新築 16件 (前年 17件)

増築 1件 (前年 0件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI	-42.1 (先月 -4.0)
翌月予測DI	-47.4 (先月 -22.7)

商業

食品品の売上の前年比は、「ここ3か月連続で微減」などやや減少との声が多い。「農作業等が忙しくなり、来店時間も6時過ぎが多く、また余り手のかからない食材の購入が多くなった」との声が寄せられた。「消費増税延期は好材料」との声も。設備面で一部に積極的な声。仕入価格は横ばいとの声が多い。

【青果卸売市場】

売上は前月比概ね横ばい、前年比はやや減少という。野菜は「比較的天候に恵まれ入荷量も順調。価格は昨年高値だったこともあり、白菜、筍、キャベツ、南瓜等で前年比5～7割の価格となり、全体では価格は18円安であった」という。

果実は「輸入柑橘、国産柑橘ともに品薄で前年より7%の価格高、全体でも6%の売上増となった。4月末の遅霜で、品薄の梅、桃、りんご、梨の今後の生産状況が心配される」との声。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、景況感は横ばいとの声。

家事用品卸の売上は、前月比横ばい、前年比はやや増加。「毎年5月に売れていた夏物が早く出たため、前月よりも売上減。季節商品は天候に左右される」との声。「メーカーによって値上げもあるが、なかなか卸売価格に反映できない」という。

家電の売上は、前月比横ばい、前年比は減少という。「御柱祭が過ぎたら動きが悪い」「消費者の購買意欲が無く、とにかく品物が売れない。ますます悪化してきている」「太陽光発電は受注件数も少なく減少している。エコキュート、システム機器などリフォームによる受注が少なく苦戦。それに伴い設備工事店も厳しい状況」等の声が寄せられた。季節柄、「小型、大型問わずエアコンの販売は伸びている」という。

OA機器の売上は、「年度初めの需要はひと段落の感」など前月比減少も、前年比増加との声が寄せられた。しかし、「景気は良くないというより、むしろ悪いと言った方がしっくりくる感」など景況感は悪化しているという。雇用面で、「高齢化が進行し、定年後の補充、確保、人材育成が急務」との声。

衣料品の売上は、前月比、前年比ともやや減少。「夏物衣料の動きはポチポチ」という。「収益はともかく、売上は前年比で下がっている」「各業種のお客様があるが、土木、建築関係の景気が良いという声が聞こえてこないように感じる」などの声が聞かれた。

娯楽用品の売上は、前月比やや増加、前年比減少も、景況感の悪化には至らないとの声。

土産物関連の売上は、前月比業者により増減分かれる。前年比はやや減少との声。「当社周辺の国道の、連休中の通行量が減っている」との声が寄せられた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比6%増加、前年比も8%増加。中古車は、前月比16%減少、前年比も8%減少した。4月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比56%減少、前年比も11%減少。中古車は前月比41%増加も、前年比は6%減少した。

自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比ともに

減少との声。中古車市場では、「仕入面では、台あたり単価が下がった。総取引台数も減少している。販売面でも、低年式車が多いため平均して下がる傾向にある。今年は販売量が減少しており、下取り、買取りとも減少しているため、商品在庫も減少」との声が寄せられた。「オークション場の会員数も少しずつ減少している」と聞く。中小規模の中古車販売店が倒産や廃業に追い込まれているようだが、整備工場を持っているところは減少が少なく、ユーザーの顧客化ができていると考えられる」という。

サービス業

市内料理店の売上は、前月比減少、「例年のことだが、年間で比較的暇な時期を迎え、土日祝日を除くとそれほど忙しくはない」「ゴールデンウィークの売上がいまいち」などの声。前年比も減少との声が多く、「前年比で売上減。景気が悪化の方向に向かっている感。こうした月も、例年なら他の月でカバーするが、今年は毎月減少していくようだ」「単価の高いものが売れない。景気が悪くなりそうな気がする」など、景況感の悪化を懸念する声が多数聞かれた。

旅館の売上は、前年比減少の声。

昼神温泉の売上は前月比、前年比ともに減少～やや減少。「花桃が例年より早く咲き終わってしまい客足が伸びなかった」「例年は連休と花桃が重なり年間でも最高売上を上げていたが、今年は大幅に減少し、花の力を改めて感じた」との声や、「ナイトツアーが休業に入り客足も止まった。ナイトツアーの集客力の大きさを感じている」「前半は例年よりやや増加したが、ナイトツアー終了と同時に減少し、通してみるとやや減少。ナイトツアーに大きく左右されている感。工夫を凝らした内容で安定させていかないと今後が心配」などの声。「改組した昼神温泉観光局が、昼神と阿智全体の観光に特化した組織に変わり動き出した。期待している」との声。雇用面で「人員不足」「単価の高い紹介社員で負担が大きい」などの声。

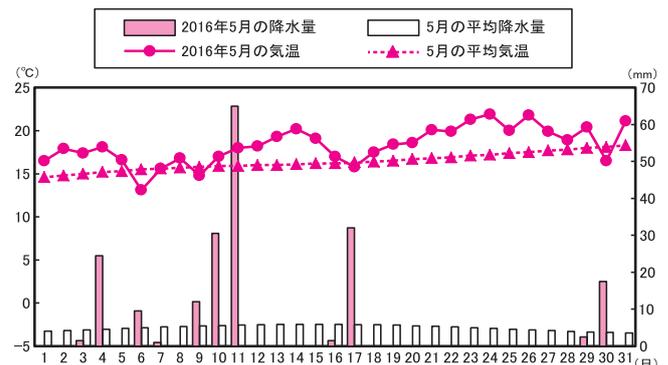
旅行代理店の売上は、「ゴールデンウィークは国内を中心に予約好調で売上は前年並を確保。海外は、近場の東南アジア方面の予約が多かったものの、今一つ活況に欠けた」との声。「熊本地震の風評被害の防止策として、正確な被害状況、復興状況のお客様への伝達を実施。また貸し切りバスの安全運航自主点検なども引き続き行っている」との声が寄せられた。

タクシーの売上は、前月比やや減少。「特需でもなければ売上はなかなか上がらない」「消費税の先延ばしは一般消費者には良かったと思うが、その結果消費が上向きになるとは限らない」などの声。「厳しい経営環境は変わらないが、サービスを提供する社員、新規採用者の不足等、人員の確保は大きな問題」との声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★消費税を上げてからの業績が悪化、アベノミクスの成長戦略は地方を疲弊させるばかりのようだ。
- ★今後のリニア時代を見据えて業界の組織改革も必要では。

飯田の気温と降水量



プチ起業・プチ創業のすすめ！

飯田信用金庫 経営相談所
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

国の創業支援策の効果もあり、年々、起業・創業の機運が盛り上がっています(右図)。今回は、手を掛けたりお金を掛けたりしない、プチ起業の話です。

最近、プライベートで、子育て中や農業に従事している女性から、「人的・金銭的に負担の少ない簡単な仕事を始めてみたいが？」と相談されることが時々あります。いわゆるプチ起業とかプチ創業と言われるものです。内容は、ネイルアート、農産物の販売、各種教室 etc。皆さんに共通することは、保育に、農作業にと、束縛される時間はあるものの、一日に一定時間の余裕があって、その時間で収入を少し得たい。ただし、起業・創業への投資はほとんど掛けられない、というものです。

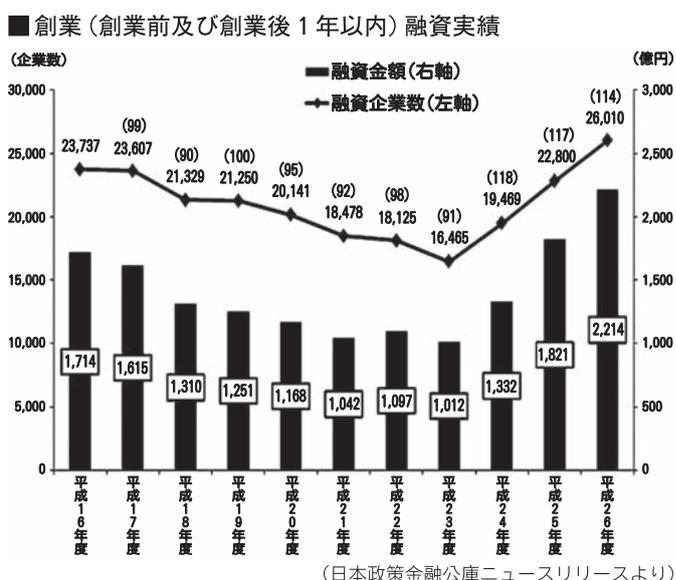
女性が、子育て、介護、農業等の様々な理由で自分が描く将来展望を形成できない中で、働くことを通じて自分の居場所や交流の場を再確認し、自分らしく生きる術を見付けることは自然な流れでしょう。個人の増収や成長だけを目指すことは、日本の成功の形ではないと思います。自分らしい生き方を実現することは、社会全体にとっても良いことだと思います。

女性が求める働き方には、「専門的な技術や資格を持っているので、雇用されなくても仕事を受注できる」「働く時間は十分に取れなくても、育児や介護の気分転換や、一段落したときの社会復帰への一歩として自分の好きなことを選んでみる」「夫の転勤や移動が多く、勤めたくても勤められないので、場所が変わっても継続して働くことができる」といった、多様な働き方を求めています。

具体的職種では、フラワーアレンジメント、ネイルアート、アロマセラピー、農産物加工、各種教室、ネットショップ、資格を生かした職種など、投資額が少なく済む職種が人気のようですが、起業・創業に当たっては、焦らずに、自分に合った、又は好きな職種を選ぶことが必要でしょう。

注意したいこともあります。

プチ起業・創業というと、収入より、自己実現、自分らしさを重視する傾向があり、中には「趣味の延長でやっている」と言う女性経営者もいますが、このことは、多くの場合、ご主人の給料で安定した生活ができている状況にあるからです。



■ 女性、シニア、若者への創業融資実績 (企業数、%)

	24年度	25年度	26年度	前年度比
女性層	3,724	4,630	5,070	110
シニア層(55歳以上)	1,659	2,283	3,088	135
若年層(30歳未満)	1,718	1,817	1,823	100
合計	7,101	8,730	9,981	114

(注)女性のシニア層及び若年層は、女性層に片寄せして計上している。

その結果、採算を度外視した価格設定で、本業としている経営者との軋轢を引き起こしたり、ママ友への強烈なPR（販売促進）等で人間関係がギクシャクしたりして、地域との繋がりを壊してしまうこともあります。儲けることは、経営者の責任でもあり、努めでもあり、儲けが出なければパート勤めをしていたほうがましです。また、経営は、人と人とのつながりが大事で、一人相撲にならず地域や人とのバランスあるコミュニケーション作りが大切です。このことが、小さくても頑張る経営者になれる要因ではないかと思います。

折しも、国では、老若男女問わず、障害者の方も、事業に失敗した方も、できる範囲で活躍してもらう「一億総活躍社会の実現」を目指しています。また「新たな男女共同参画基本計画」では、「男性中心型労働慣行等の変革と女性の活躍」を柱としています。女性が活躍するためには多様で柔軟な働き方を選択できるようにしなければなりません。できることから始めてみませんか？

今年も起業家・創業家のチャレンジをバックアップする「2016飯田市起業家ビジネスプランコンペティション」の募集が始まりました。ぜひ挑戦してみてください。

2016年 飯田市起業家ビジネスプランコンペティション募集要項〈抜粋〉

（起業家のチャレンジをバックアップします）

〈目 的〉

特色ある有望な事業プランを持つ起業家を発掘し、当地域の経済団体、行政等が一丸となって、事業化および事業の成長をサポートすることにより、起業家のチャレンジを支援し、地域経済の活性化に繋がります。

〈募集期間〉

平成28年7月1日（金）～平成28年9月30日（金）

〈応募資格〉

次のいずれにも該当する方

1. 新たに事業を始める方、または、事業開始後最初の税務申告を終えていない方。
2. 原則として平成29年3月末までに、飯田市内で開業する予定の方
3. 開業の日以後、飯田市内に法人設立登記（個人事業主の場合は住民登録）の予定のある方。
4. 飯田市税を滞納していない方。
5. 事業を行うに当たり必要な許認可等を有し、かつ、法令等に違反していない方。
6. 公民権の停止を受けていない方。
7. 公の秩序または善良の風俗を害しない、社会通念上適当と認められる事業を行う予定の方。
8. 暴力団員等反社会的な勢力と認められる者（関係している者を含む）でない方。反社会的勢力から出資等の資金提供を受ける（受けている）場合も応募資格の対象外とします。

〈応募方法〉

飯田市のホームページから「応募申込書」をダウンロードしてください。

応募申込書に必要事項を記入（入力）のうえ、窓口持参または郵送により提出してください。

〈提出先〉 飯田市金融政策課（飯田商工会議所内）

TEL 0265-59-7161

〈その他〉 詳細については、飯田市のホームページまたは上記へTELしてください。

斜視 (十十メ) 力のすすめ (29)

しんきん南信州地域研究所
主席研究員 井上 弘司

全国の自治体の大多数がキャッチフレーズにする、「歴史、文化、自然、暮らし」。狭い日本ですから、どこも同じようなフレーズになるのは致し方ないとはいえ、この金太郎飴のような謳い文句に疑問を抱いた方もいらっしゃるでしょう。

例えば「自然豊か」という言葉。ところが現場に行くと、山は放置され、川は防護壁に囲まれ、ゴミが散乱していて、違うでしょうとツッコミを入れたくなります。

歴史文化や伝統、祭りも同様で、大義名分は抽象化し、イメージだけで語られています。

「大切だから」だけでは、残そうとしても担い手はできません。だからといって、「残す」ためだけに税金を投入するのも妙な感じがします。たとえどれほどの価値があろうと、誇りを持っている方がいようと、強い支持や需要がなければ衰退するのは当然のことです。

暮らしの変化によって在来種が外来種に駆逐されるがごとく、様々なモノやコトが消え、新たなものが生まれているのです。

今回のテーマは「伝統技術を残すのは、なんのためか」です。

時代の変遷や技術革新により、かつては必要だったモノも現代では見向きもされなくなるケースを各地で見聞してきました。

グローバル化が叫ばれ、需給の経済活動から片隅に追いやられた伝統技術は、トキのように保護すれば良いわけではなく、文化という一面だけで測るものでもないと思います。これも一回で書ける内容ではありませんので、いずれ再登場することになるでしょう。

■綿の道、綿の歴史

近年、オーガニック・コットンが自然素材として人気が高まっています。東日本大震災による塩害田畑の再生に活用されたことも要因でしょう。

日本後紀や類聚国史の記述によれば、糸偏でなく木偏の「棉」には、延暦18(799)年に現在の愛知県西尾市天竹(天竺から変化したものといわれる)に漂着した崑崙人が、棉栽培を三河から紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊予・土佐・筑前に伝えたと伝承があり、愛知県西尾市にある「天竹神社」は「棉祖神」を主祭神として奉っています。

三河地方の綿栽培は、鉄砲の火縄に綿を使用した戦国時代の後期から盛んになり、品種改良も進み、日本独自の「和綿」が出来上がります。「和綿」は麻と比較して生地加工がし易かったため、江戸時代に入ると、



三河は織物産業の集積地としても発展していきました。

信州は高冷地で綿栽培に適さず、代わりに大麻を栽培し、衣服に加工して寒さを凌いでいましたが、江戸時代に需要が高まったことで、「塩の道」は「綿の道」ともなりました。

高齢の方であれば、「衣替え」のことを、「綿抜き」「綿入れ」と言っていたことを思い出すでしょう。

近年、長野県南木曾町の「ねこ」と呼ばれる、背中だけの綿入れはんてんが脚光を浴びましたが、南信州でも同じように、それぞれの家で布団の真綿をリサイクルした「ねこ」を年寄りたちが背中に背負っていました。本当は袖まで綿入れをしたいところを、綿が高級だったために背中だけに使用していたのでしょう。信州人には木綿は貴重なもので、昔は綿入れはんてんをお客様に着せることが、もてなしの一つだったと聞きました。

明治に入り、安曇野市の発明家「臥雲辰致（がうん たつむね）」が臥雲式紡績機（ガラ紡）を発明、三河地方はこのガラ紡に水車を結合した水車紡績や船紡績が普及し隆盛を極めます。さらに大正13（1924）年、豊田佐吉がG型自動織機を発明し、世界の繊維産業に革命をもたらしました。太平洋戦争時は火薬製造のため綿花栽培が行われ、豊田織機が開発した自動織機がその先頭に立ち、機械さえ持っていればいくらでも儲かると言われた朝鮮戦争で繊維産業は大バブルとなります。

しかし、化繊の普及や日本人の生活スタイルが洋式化する中で、アジア産の安価な綿に押された国内の繊維産業は冷え込みます。さらに、時の政府がニクソン大統領の繊維産業に対する圧力に負け、国内繊維メーカーの機械を買い取る政策が打ち出した結果、流通の一番下にいた中小繊維組合が機械を投げ売り、廃業していきます。

東証一部上場の繊維メーカーは残りますが、細い糸を紡ぎ、まさに綱渡りをしてきた地場産業の織物を始めとした繊維関係企業は、日常着から着物が消え、さらに婚礼の簡略化等によるマーケット縮小の煽りを受けます。そして、その周辺の、伝統的な染め、あるいは下駄や小物、かんざし、帯留めなどの産業も成り立たなくなり、伝統技術の担い手が減少していきました。

■伊勢木綿は産業として残す



津市にある臼井織布㈱は、亀山市で創業した

しかし、高度経済成長期、化学繊維の隆盛や生活の洋風化など国民の暮らしの変化に伴い、木綿の需要が落ち込み、零細の製造業者のほとんどが廃業していきました。

現在唯一、伊勢木綿織として残る臼井織布㈱は、国内最高級の純綿糸を使用し、昔から変わらない製法で生き残っています。

強く撚（よ）りをかけずに綿に近い状態の糸を天然の澱粉（でんぷん）のりで固めて、昔の機械でゆっくりと織っていくために、一台の機械で一日一反（13m）しか織れませんが、暖かく、しわになりにくいことが伊勢木綿の特徴です。

三重県は、三河とともに気候、水、土、肥料（イワシ）、労働力、輸送に恵まれたため、江戸期から綿花の大産地となり、木綿織り製造も各地に残っています。しかしそれは、国、県や市町村による、伝統文化を絶やさないという、保存ありき、あわよくば観光資源にとの意向から残っているものがほとんどで、県民も木綿の一大産地であったことすら知らず、忘れ去られつつあります。

江戸時代から伊勢神宮の参拝土産の一つとして売られた伊勢木綿は、戦前までは日常着として全国の人々に愛用され、当時の伊勢商人達の経済的基盤を作りました。



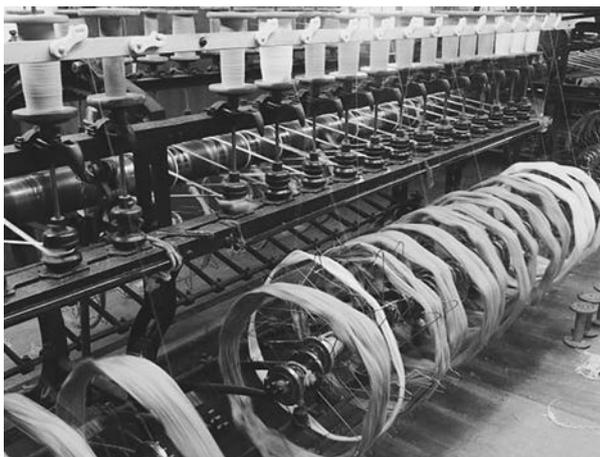
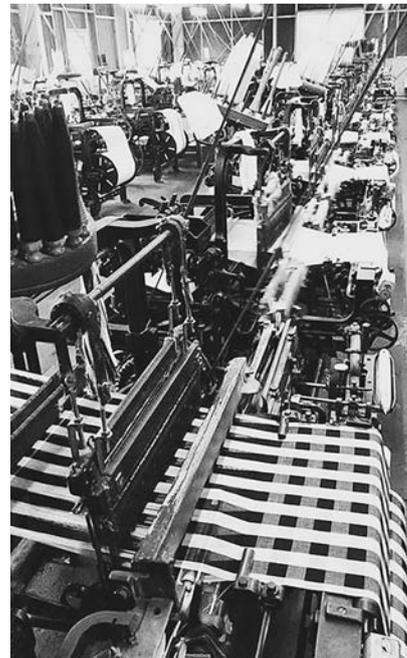
臼井社長の話によれば、「弱撚糸」で出来上がった布は、洗うほどに糊（のり）が落ち、糸が綿に戻ろうとするので生地が柔らかくなる。一般の綿は洗えば硬くなるのに対して、洗えば洗うほど最高の肌触りと古布のような素朴な風合いが出ることが魅力だと言います。京都縞、黄八丈、一本カタハ、ヤタラ格子など、伊勢木綿は美しい伝統的な縞や格子柄も特徴です。

多くの伝統産業は、今、危機を迎えています。そもそも「伝統産業」という概念でガラスケースの中で展示されること自体が、既に産業として時代の流れに乗れず衰退した産業です。

「産業として残す。使うものとして残したい」と、臼井社長は語ります。

臼井織布では、現役で稼働する自動織機のために、既に部品の生産が終了し廃業する織機工場に出向いて、部品調達をしながら生産を続けています。ただ歴史資料として保存展示されているトヨタ博物館へのアンチテーゼである

かのように、伝統産業という言葉にイメージされる、古く保守的な在り方にとらわれず、現在進行形で生きている産業として伊勢木綿を残したいという強い思いが、臼井社長から感じられました。



「伝統産業を『生きている産業』として残すためには何をどう考えて行動すれば良いでしょうか」との問いに、臼井社長は「組合の存在がネック。組合があると、組合内で政治が発生し、組合組織そのものを守るために組織が硬直化し、新しいことに挑戦できなくなる。組合を維持することは、公的補助金を受けることにも繋がるが、補助金に頼ることで、職人として、ビジネスとして、切磋琢磨がなくなり、成長がなくなるという弊害がある。今、伊勢木綿は組合を解散し、臼井織布の独力で活動している」と明快に答えてくれました。

文化を、「今のままではなくなる」という目からだけ捉えるとき、行政などの公的機関や研究者は、それを採集、保護しようとしています。公的補助金も、結局は、保護すべき、消え行く対象として「文化」を見ているがゆえに支給されるというわけです。

更に残念なことに、公的機関は、そのモノに焦点を当て、周辺の関連業種に目を向けていないことも問題です。

例えば「漆」では、漆取りや塗りの技術があっても、漆掻きの道具を作る鍛冶屋がないとか、ダルマ生産に不可欠な国産の本ニカワがなく長期間保たない中国産を使用せざるを得ない、どれほど良い木綿でも本染め職人や染め材料が科学品で良い色が出ないなど、周辺産業も同時に消滅しているのです。

■若手デザイナーとのコラボで生き残る

歴史の中のモノとして展示されるのではなく、実際に着られる、使われるものとして残し、産業として残さなくってはならないと考える臼井社長は、異業種とのコラボを模索しています。

具体的には、京都の「SOU・SOU」や「衣 伊勢木綿」など、新しいブランドを構築しようとするグループと共同戦線を張っています。

SOU・SOUは、「伝統の続きをデザインする」というコンセプトの下、日本の伝統的モチーフを取り込んだテキスタイルデザインと、日本の伝統的技術を活用しアレンジした服飾で、今、若者だけでなく高齢者にも人気の企業です。

県内でも知名度のない伊勢木綿は、どれほど良い物を作っても売れません。廃業を前提にしていると語りながらも、「補助金に頼らず、生きている産業として残すために、飾る物ではない伊勢木綿を残したい」とする臼井社長にとって、SOU・SOUの優れたテキスタイルデザインはうってつけだったのです。

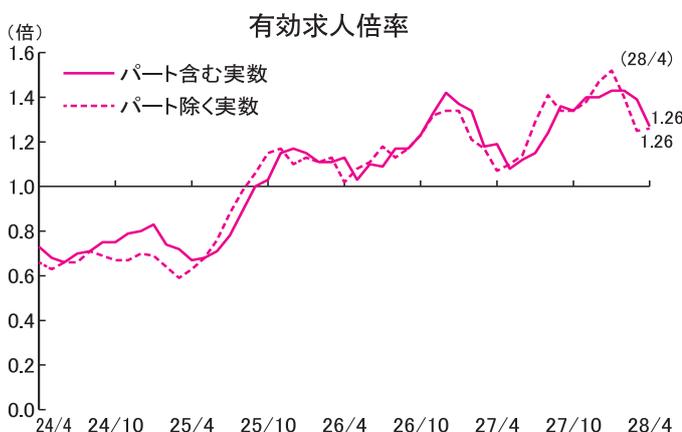
そして伊勢木綿とコラボしたSOU・SOUは、「SOUSOU・伊勢木綿」という明確なネーミングで、京都の繁華街である寺町に専門店を開きました。

SOU・SOUのホームページに「今の日本の暮らしから生まれる柄や色を伊勢木綿に染めて、普段の生活に必要な物を作るということは、現代の日本人デザイナーの自然な姿であり、極めて大切な作業だと言えます。SOU・SOUと伊勢木綿のコラボレーションの本当の意味がここにあります」との記述があり、伝統技術を真ん中に、双方の共感がコラボしていることが分かります。

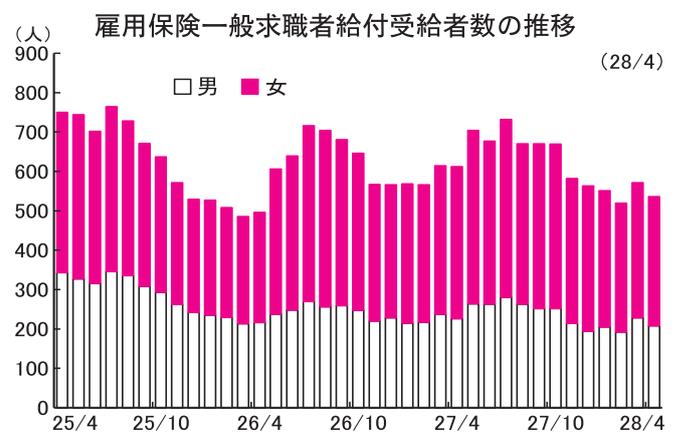
このSOU・SOUの展開は、商店街づくりの観点からも非常に興味深い事例です。詳細は稿を改めて書きます。

執筆者 井上弘司(いのうえ ひろし)：1952年飯田市生まれ。飯田市エコツーリズム推進室長、産業経済部企画幹、企画部企画幹を経て2009年3月退職。現CRC地域再生診療所所長、NPO法人しんきん南信州地域研究所主席研究員。観光カリスマ百選(国土交通省)、地域活性化伝道師(内閣府)、地域力創造アドバイザー(総務省)、地域再生マネージャー(ふるさと財団)。

雇用の状況



4月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.26倍と前月から0.01ポイント下降。パートを除く実数は1.26倍で前月から0.01ポイント上昇している。



4月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は20人減少、女性も15人減少しており、全体では536人と前月から35人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)